

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.3

名前

得点

/9

問1 高度経済成長期以降の都市部への人口流出や、近年の少子高齢化の進行を背景として、地域社会の維持が危ぶまれる地域が増加している。人口減少に伴って住民の高齢化率が50%以上となり、冠婚葬祭や道路維持、防災といった共同生活の維持が困難になった集落を何と呼ぶか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 限界集落 2. 消滅集落 3. 存続集落 4. 過疎地域

問2 ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーが提唱した、自己の存在を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとするもの」であると考え、あらゆる存在に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを人間の根源的な責任とする倫理思想を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 自然の権利 2. 人間中心主義 3. 責任の原理 4. 生命への畏敬

問3 現代の医療現場において、患者が医師から病状や治療方針について十分な説明を受け、それを正しく理解した上で、自らの意思に基づいて治療方針を選択・決定することを何というか。日本語では「説明と同意」とも訳される。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. セカンド・オピニオン 2. インフォームド・コンセント 3. クオリティ・オブ・ライフ 4. リビング・ウィル

問4 人間のパーソナリティ（性格）を理解するためのアプローチのうち、人々をいくつかの典型的なパターンに分類して捉える方法を何というか。この方法は、性格の全体像を直感的かつ総合的に把握しやすいという長所を持つ一方で、個人の多様な側面を無視して一面的に型にはめてしまいやすいという短所がある。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 発達論 2. 特性論 3. 類型論 4. 状況論

問5 現代社会における労働は、賃金を得るための経済活動にとどまらず、多様な側面を持っている。オーストリア出身の思想家イリイチは、近代の産業社会において、賃金労働を成り立たせる前提でありながら、それ自体には報酬が支払われない、家事や育児などの不払い労働の存在を指摘した。このような、市場経済の影で社会を支える無償の労働を指す言葉として最も適当なものを答えよ。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. ディーセント・ワーク 2. アンペイド・ワーク 3. ジェンダー・ロール 4. シャドウ・ワーク

問6 日常の当たり前の前提や、人々が深く考えずに用いている言葉に対して、対話を通じて問いかけを重ねることで、自らが真には理解していないという事実を自覚させ、主体的な思考の深化を促した古代ギリシアの哲学者は誰か。 (2022年 全国公立入試 類似)

1. ゴルギアス 2. ソクラテス 3. ピタゴラス 4. エピクロス

問7 青年は、子どもの集団から大人の集団へと移行する過渡期にあり、双方の境界に位置することから精神的な動揺や葛藤を経験しやすい。このような青年期の特徴を「境界人（マージナル・マン）」という概念で説明した、ドイツ出身の心理学者は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. アドラー 2. ピアジェ 3.フロイト 4. レヴィン

問8 青年期において、自分自身を客観的な対象として見つめ、他者とは異なる独立した存在として捉える心の働きが生じる。例えば、自分が抱く自己像と、他者からの評価や意見とのズレを契機として、自分という存在について改めて問い直すようなプロセスを通じて深まる、この自己に対する認識を何というか。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. 自己実現 2. 自我意識 3. 欲求不満 4. 防衛機制

問9 災害対策や犯罪防止といった社会安全の目的と、個人の私生活上の自由との調和が現代社会の課題となっている。世論調査において、高齢者や障害者等の名簿を防災・防犯目的で共有することに対し、プライバシー保護の観点から「必要最小限の範囲」での活用にとどめるべきだとする慎重な意見が根強い。このような、個人の尊厳を守るために私生活上の情報をみだりに公開されない権利の保障や、IT社会における適正な情報取扱いのルールを定めた、2003年に制定された日本の法律は何か。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. 情報公開法 2. 消費者契約法 3. 個人情報保護法 4. 製造物責任法

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 1 限界集落	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が進んだことで過疎化が進行した。さらに近年の少子高齢化が加わることで、住民の半数以上が65歳以上の高齢者となり、自治活動や共同作業などの社会的な共同生活を維持することが困難になった集落を指す。バブル経済崩壊後に初めて生じた現象ではなく、高度経済成長期以降の長期的な人口流出と少子高齢化が背景にある。
問2	答え 4 生命への畏敬	シュヴァイツァーは、自己の生命を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとする生命」を持っていると考えた。このすべての生命に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを「生命への畏敬」と呼び、人間の根源的な責任であると主張した。
問3	答え 2 インフォームド・コンセント	医療技術の進歩に伴い、患者自身の自己決定権が重視されるようになった。医師が一方向的に治療方針を決めるパターナリズム（温情主義）から脱却し、患者が十分な説明を受けた上で自ら同意・選択するプロセスを指す。
問4	答え 3 類型論	人間の性格をいくつかの典型的なタイプに分類して理解する手法は類型論と呼ばれる。クレッチマーの体型による分類や、ユングの内向型・外向型などがその代表例である。全体像を直感的に把握しやすい利点があるが、中間的な性格を捉えにくく、ステレオタイプの人々を型にはめてしまう欠点がある。これに対し、個々の特性の組み合わせや強弱で性格を捉える方法は特性論と呼ばれる。
問5	答え 4 シャドウ・ワーク	イリイチ (Ivan Illich) は、近代の産業社会において、賃金労働 (ペイド・ワーク) の成立を陰で支えているにもかかわらず、市場価値が認められず無償で行われる労働 (家事、育児、自己学習など) を「シャドウ・ワーク」と名付けた。これは、経済活動以外の側面や労働の多様性を捉える上で重要な概念であり、ジェンダーやケア労働の議論においても頻繁に参照される。
問6	答え 2 ソクラテス	ソクラテスは、アテナイの市民たちが日常的に用いている美や正義などの概念について、対話 (問答法) を通じて問いかけることで、彼らが実際にはそれらを理解していないこと (無知の知) を自覚させようとした。これは、日常のありふれた前提を問い直し、思考停止に陥ることを防いで真の知へと至るための、主体的な思考の深化を促す実践であった。
問7	答え 4 レヴィン	青年を子どもと大人の過渡期にある「境界人 (マージナル・マン)」と位置づけたのは、ドイツ出身の心理学者レヴィンである。ルソーは青年期を「第二の誕生」と呼び、ハヴィガーストは青年期の発達課題を分類・整理した。
問8	答え 2 自我意識	自分自身を意識の対象とすることを指す。青年期には、他者からの評価や意見をきっかけに、それまで当たり前だと思っていた自分自身のあり方を客観的に見つめ直し、他者とは異なる独立した存在として自覚するようになる。このプロセスを通じて、自己の独自性や内面への関心が高まる。なお、自己の連続性や一貫性の感覚を指す「自我同一性 (アイデンティティ)」や、自己の持つ可能性を最大限に発揮することを指す「自己実現」とは区別される。
問9	答え 3 個人情報保護法	高度情報社会において、個人の尊厳を守りつつ情報の有用性に配慮するために制定されたのが個人情報保護法 (個人情報の保護に関する法律) である。防災や防犯といった公共の利益のために個人情報を活用する場合であっても、世論調査等ではプライバシーへの配慮から「必要最小限の範囲」での共有を求める慎重な姿勢が主流を占めており、法運用においても個人情報の有用性と個人の権利利益の保護とのバランスが重視されている。